

萬福寺住職「活動記録」

カンボジア難民救済の活動について

文書にして、東京都知事に質問状を書きたくなり、六法全書や解説書を読み直してみたが、今の私には救済事業が山積しており、余分な時間が全くない。都議会議員に邪魔をされて悔しいが、そんな事を考える時間よりボランティア活動の事を心配する事が肝要であると自分の心を置き変えた。

外務大臣から感謝状届く

その時に外務省からの感謝状が私の所へ届いた。

「感謝状、曹洞宗東南アジア難民救済会議殿、貴会がインドシナ難民救済の為寄付を通して同難民救済に大きく貢献されました。よってその功績を称えここに感謝の意を表します。昭和55年4月16日、外務大臣 大来佐武郎」

外務大臣が我々の救済活動を正しく評価してくれて大層嬉しかった。この2台の車の贈呈が曹洞宗難民救済の最初の大事業であった。しかし更に嬉しかった事は、バキュームカーの担当者がゴミ処理車を追加してくれ、更に3回続けようと言って奉仕の大慈悲心を頂戴した事である。途中で邪魔が入って続かなくて残念であったが、御協力に感謝申し上げている。私には救済事業が待っているの、妨害行為は忘れて救済事業に奔走した。

活動内容を国内・外の報道機関が放映

1月19日発会して以来、まず募金対策、百万枚の封筒印刷、それを全国寺院へ配布して募金依頼し、2月4日、第二次調査団を出して慰問品贈呈、自動車文庫の実用性の調査、児童教育の実現性など広範な調査を依頼した。2月24日、第一次ボランティア8人を派遣し、日本の小学生の図画450枚を持参、展覧会を開き、机を並べて大量の画用紙、クレヨン、児童に渡して絵を描かせた。児童は文字を書けないので、絵を受け取る人に絵の筆者名、年齢、性別を書かせて集めた。3月1日、帰国ボランティアが550枚の難民児童画を持ち帰った。それを最

も驚いたのはNHKであった。これまでテレビ放送に10枚の難民図画で放送していたので、550枚の中から選別して3月18日「600こちら情報部」で全国放送をした。

4月14日、第三次調査団を出した。16日カオイダン難民キャンプで平和祈念大会が準備されていた。10万人の難民を舞台の前面に集め並べるのに早朝から昼12時まで掛かった。開会の言葉に続いて、吉岡会長が挨拶して曹洞宗の活動を報告した。

この行事をアメリカのABC放送のテレビカメラが取材をして、世界各国のテレビ会社へ売り、大好評で世界中へニュースが放映された。日本では4月19日夜7時のNHKニュースで放送され、私の父母は夕食後にテレビニュースを見ていたら、まず私の顔が大写真で放映された。続いて式典の様子や難民の大群衆が放送された事を私は後日になって父母から聞いた。4、5日後には台湾から手紙が届けられ、テレビで見たので応援するとのこと。10日間位の間に7通の手紙が来て、その中にはテレビ映像の写真が入っていた。後日になってどうして写真が撮れたのか尋ねたら、息子がテレビ放送の職業で、電話でニュースの写真を欲しいと言ったら翌日写真を届けてくれた、との事であった。フランスからも応援の手紙が来た。

識字率向上を目指し
移動図書館稼働に奔走

5月になるとアメリカ開教師の松永然道師が帰国するニュースが入った。私は「しめた」と思った。若者ボランティアの中に指導者が必要で、早くから探していたが居ない。仕方なく山口県の有馬実成師に時々現地に行つて指導に当たってもらっていた。松永師が手伝えば鬼に金棒である。有馬師と共に松永師を説得して5月26日から6月8日まで2人を現地へ派遣した。私の思いは大成功で8月から現地駐在の指導者として活躍してくれた。

5月26日から31日まで池袋のサンシャインビルで

「自立の道を目指して」と題して難民絵画を展示した。これもNHKテレビで全国放送された。戦乱で7、8年前から教育を受けていないので、年齢に応じた進歩が無い。5、6歳の子どもと12、13歳の子供の進歩が見えない。この絵を分析すると無教育の恐ろしさを痛感し、移動図書館で識字教育を如何に実行するか、難題に恐怖感が走った。展示会が終ると1メートル四方のパネルに5、6枚の絵を貼り、説明を付けて細長い角材で足を付け、並べて展示出来るよう10枚組や20枚組を作つて、全国各地に巡回展示をした。

2月以降から日本語、タイ語の本をクメール語に翻訳して増刷した。私は東京渋谷の童話専門書店で幼児本を見た。文字の無い絵本や写真集が大量に存在し、これはそのまま利用出来る、漫画本は丸の中に言葉が書いてあるので、それをクメール語に翻訳して丸の中へ貼り付けると改造本が出来ると気付いた。早速クメール語翻訳者を探して貼り付け本を作り、出版社の許可を得て改造本の製作が始まった。

現地では難民キャンプの中に難民ボランティアの作業所を設けて印刷活動を開始した。すると難民の中から画家と作家が現れて来た。伝説物語を作文し、画家が挿絵を描いて物語集が難民キャンプの中から発行された。約2ヶ月後にアメリカから難民発行の物語集の注文が来て、世界の情報伝達の機敏さに驚いた。

こうして多種多様な作業が続いた。スライドも30本位用意し、アンコールワットの写真集を複写してスライドを作ったり、際限の無い作業の集積によって2台の移動図書館が完成した。

赤痢に罹患、一時帰国し国際電話で指示

移動図書館の完成とは、車と図書と其の他の教材が揃った事であり、今後はこれらの材料を如何にして活用するか、それをカンボジア人に如何に伝導するか、これらが本番である。現地人の中から指導